

## 就職までの流れ

### 1 年生

	内容	時期
1	選択コース説明会	6 月
2	アビリンピック見学	6 月
3	コース希望調査	6 月下旬
4	1 学期末保護者懇談	7 月上旬
5	実態把握（学校生活の様子） 基本的な生活習慣や授業への参加の様子等を確認します。	10 月
6	職業基礎コース担当教員面談 生徒本人の就職の意志を確認します。	10 月
7	准校長面接 生徒本人の就職の意志を確認します。	10、11 月
8	作業実習 長時間の立ち作業を通して、実習に耐えられる体力と心の強さがあるかを確認します。	11 月
9	2 学期末保護者懇談 <u>保護者</u> 、担任、進路担当で 2 年生を職業基礎コースとして迎えるにあたっての確認をします。	12 月上旬
10	コース決定通知	1 月
11	自主通学の準備 <u>保護者</u> に協力していただき、公共交通機関利用の練習をします。	1 月～
12	体験実習	1 月～

## 2 年生

	内容	時期
1	自主通学の開始	4 月
2	標準服（スーツ）、かばん、作業服（学校指定）等の購入	4、5 月
3	アビリンピック喫茶部門に出場	6 月
4	企業体験実習（1～2 週間×2、3 回） 企業見学（2 回） 外部講師による授業（2 回） 3 業種以上（接客サービス、製造、事務補助、清掃等）を経験し、仕事のイメージを膨らませます。	7 月～随時
5	学年末保護者懇談 保護者、担任、進路担当で 3 年生に向けて実習等の振り返りをします。	3 月

## 3 年生

	内容	時期
1	企業体験実習、採用を前提とした実習、面接 希望する業種を中心に随時実習、面接に臨みます。決まるまで何社も挑戦します。	4 月～随時
2	ハローワーク茨木にて求職登録	6 月
3	大阪障害者職業センターにて職業（重度）判定 対象者は保護者同伴のもと堺筋本町にあるセンターで判定を受けます。	7 月～
4	職業能力開発校の願書締め切り 進路変更する場合は、この時期が目安です。試験は 12 月頃。	10 月
5	茨木・摂津障害者就業・生活支援センターにて登録 就職希望者は、就職後のアフターフォロー等を受けるために保護者同伴のもと登録をします。（居住地によっては、登録先のセンターが変わります。）	2 月
6	就職前の実習 内定後、職場に慣れるために実習に行く場合があります。	2、3 月
7	卒業式	3 月
8	入社	3 月～

※1 1、2 年時の体験実習・アビリンピックへの参加は、状況により延期や中止の場合があります。

## 就職に関する用語解説

### （１） 法定雇用率

障がい者の雇用の促進等に関する法律により、一般企業は従業員４０人以上の企業は２．５％、公共機関等は２．８％の障害者の雇用義務が定められています。

### （２） 重度判定

企業の障がい者雇用における「雇用率の算定」や各種「助成金」等の助成を受ける際に、障がいをもつ人が「職業的重度」か否かの判定が必要になります。本校では、就職を希望する生徒は高３の７月以降に「大阪障害者職業センター」で判定を受けることとなります。

※参考〈法定雇用障がい者数の算定〉

雇用形態	障がい者※	算定数
常用労働者 (３０時間以上)	重度身体障がい者・重度知的障がい者	１人を２人として計算
	身体障がい者・知的障がい者・ 精神障がい者	１人を１人として計算
短時間労働者 (１０時間以上２０ 時間未満)	重度身体障がい者・重度知的障がい者	１人を１人として計算
	身体障がい者・知的障がい者	１人を０．５人として計算
	精神障がい者	１人を０．５人または１人として計算

※この場合の「重度」は、重度判定により「職業的重度」と判定された場合を指します。

### （３） 特例子会社

企業が障がい者雇用に特別の配慮をした子会社を設立し、一定の要件を満たしていると認定を受けた場合、特例としてその子会社に雇用されている障がい者を親会社に雇用されているとみなして実雇用率（法定雇用率）を算定できます。また親会社と関連する企業グループについても算定が適用されるとしています。特例子会社は全国的に増えており、令和５年６月現在５９８社となっています。

### （４） 就業・生活支援センター

卒業後の生活支援や就業支援（就労中の相談への対応等）をするところです。おおよそ人口３０万人圏域に１か所設置され、茨木市と摂津市は「茨木・摂津障害者就業・生活支援センター」、高槻市と島本町は「高槻障害者就業・生活支援センター」が担当となります。地域によって略称が異なり、大阪府では「就ポツ」、他府県では「なかポツ」と呼ばれています。企業訪問や面談による職場定着に向けた支援や、離職者への就職活動の支援などを行います。